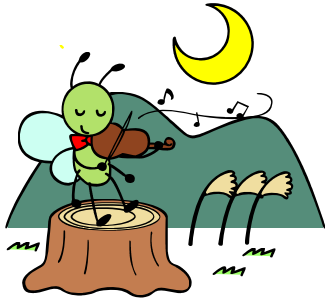




わかやま

No.33

和歌山県精神保健福祉センターだより

2007年10月

「扉」

和歌山県精神保健福祉センター所長 北端 裕司

和歌山県精神保健福祉センター 北端でございます。時が経つのは早いもので、所長に就任し3年目となりました。就任後、「山あり・谷あり」ではなく、「大ハリケーンあり・山あり・山あり」の2年半で、今も現在進行形で「山あり・山あり」の状態です。

さて、就任当初からの課題であった「災害・事件・事故後のこころのケア」に関する対策は、「和歌山県こころのレスキュー隊（こころのレスキュー隊）」という形で結実しました。「こころのレスキュー隊」は平成19年8月23日に隊員24名をもって正式発足となり、同日より大規模な学校危機時の「こころのケア」の側方支援部隊である「クライシス・レスポンス・チーム」は即応態勢にはいっています。「こころのレスキュー隊」は、県職員・市町村に所属する方・独立行政法人に所属する方、民間機関に所属する方がチームを組んで活動するという行政としては全く新しい手法を用いたチームで、「パッション・スキル・チームワーク」が高度に要求される活動です。和歌山県のメンタルヘルスの分野に、1つの新しい扉が開いたと自負しております。この扉が再び閉じることがないようにしていきたいと思っております。

就任以来のもう一つの大きな課題である「自殺対策」、とくに「自死遺族支援」に関しては、「わかやま自殺対策シンポジウム ～自死遺族支援・私たちにもできること～」（平成19年9月24日開催）をもって1つの大きな節目を迎えたと感じております。同シンポジウムには、約130名の方に参加いただきました。同シンポジウムは3部構成で、まず内閣府自殺対策推進室の森信二氏より「自殺総合対策大綱から自死遺族支援を考える」と題して基調講演をいただき、続いて自死遺族の方より体験発表をいただきました。最後に5名のシンポジストにてシンポジウムを行ないました。私もシンポジストの1人として登壇させていただき、平成19年10月より当所にて「グリーフケア相談」を開始することをお伝えしました。「グリーフケア相談」が発展し、遺族の方の分かち合いの会につながることを心から願っております。

オープン・セサミ！！

もくじ

- P 1 扉
- P 2 第2回全国CRT連絡協議会を開催して
- P 3 自殺対策・わかやまこころのフェスティバル2007
- P 4 南紀のこころの医療・保健・福祉をなんとかしよら
ネットワーク ご紹介
- P 5 メンタルヘルスニュース
- P 6 は一とふるネットワーク「東牟婁圏域障害児者相談・
生活サポートセンター 水口 真一さん」
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/050301/>

第2回全国CRT連絡協議会を開催して

学校危機への緊急支援を行う「クライシス・レスポンス・チーム」(CRT)の活動の情報交換を行う第2回全国CRT連絡協議会とそれに伴う研修会が、8月24日・25日の両日県民交流プラザ和歌山ビッグ愛で開催された。

8月24日(金)の午前中に、全国66の精神保健福祉センターのうち、実施もしくは実施を検討している16カ所の精神保健福祉センター職員やCRT隊員、計48名が参加し、業務連絡会が開催された。業務連絡会では、静岡県のCRTの出動事例の検討が行われた。事例検討会では、時系列にCRTの支援内容が説明され、具体的にCRTの活動がイメージできた。また、最後に次年度の開催県として長崎県が採択された。



業務連絡会

24日の午後には、県内外の関係者を対象に、ビッグ愛の大ホールでCRTセミナー2007が開催され、県内外の関係者110名の参加があった。武蔵野大学人間関係学部藤森和美教授による「学校危機時の子どものこころのケア」と題した講演があり、藤森教授の実践に基づいた具体的かつ理論的なお話により学校危機時に子どものこころのケアに配慮する活動の必要性和多職種によるチームによる外部支援の必要性が理解できた。セミナー後半では、山口県CRTの司令である山口県精神保健福祉センター所長河野通英氏と元徳山高等専門学校校長で現在科学振興機構審議役の天野徹氏による対談があり、昨年の徳山高専事件でのCRTの動きと、学校側がどう判断し、対応したのかを時系列に、リアルに話された。この対談により外部支援の必要性和学校とCRTの役割の理解が深まった。



CRTセミナー2007

8月25日(土)は、CRTワークショップが開催され、「体験CRT」などの実践的な研修が実施され、県内外の隊員対象の「CRT任務の構造」では、指揮隊員をはじめ、活動可能な隊員の確保と資質の向上など今後の課題についても明らかにした。

和歌山県では、昨年度よりこころの緊急支援を行う「こころのレスキュー隊」の発足準備を勧め、8月23日に24名の隊員で構成される「こころのレスキュー隊」が発足した。この機会に全国CRT連絡協議会を開催できたことは、県内に啓発する良い機会となった。また、始動し始めたばかりの我が県にとっては、このような全国連絡協議会で、お互いに情報交換や研鑽しながら、困ったときにいつでも相談しながらこの活動を勧めていけることがわかり大変心強い気持ちになった。

※クライシスレスポンスチーム(CRT)とは、池田小学校事件のような学校内外で子どもが巻き込まれるような事件が起こったときに事件後3日間、緊急的に学校現場に介入し、こころのケアに配慮した危機対応の助言やこころのケアを行う「こころのケアチーム」の事です。このチームは、医師や臨床心理士、精神保健福祉士、保健師、看護師といったこころのケアの専門家で構成されます。



「わかやま自殺対策シンポジウム」を開催しました

全国で年間3万人以上、県内でも10年連続で250人を超える人が自殺でなくなり、官民一体となった対策が求められる中、「わかやま自殺対策シンポジウム～自死遺族支援・私たちにもできること～」が9月24日、県立医科大学講堂で開かれ、県民や関係者130人の参加がありました（和歌山県主催）。

まず内閣府自殺対策推進室より「自殺遺族支援の総合的な対策を考える」というテーマで日本の自殺の状況とそれを受けての自死遺族支援施策について基調講演がありました。次に自死遺族の尾角光美さんが自身の貴重な体験を語られました。シンポジウムでは医科大学篠崎和弘教授をコーディネーターに地域看護、民間支援団体（和歌山いのちの電話、自死遺族支援ネットワークRE、（NPO）ライフリンク）、行政の立場で取り組みを各シンポジストに語って頂きました。

参加者からは「自殺について現状がよくわかった。遺族の方の想いや自殺された方のことが少しでもわかった。」といったご意見を多数頂きました。



シンポジストの皆さん

グリーフケア相談窓口を開催します

自死により大切な人を亡くされた方の死別による悲しみからの回復をお手伝いするために、当センターでは相談窓口を開設します。

（対象）大切な人を自死で失った遺族
（場所）和歌山県精神保健福祉センター相談室
（とき）平成19年10月22日（月）
11月26日（月）
12月10日（月）
平成20年 1月28日（月）
2月25日（月）
3月17日（月）

時間は午後。各相談日の前日までに当センターにお申し込み下さい。

わかやまこころのフェスティバル2007が開催されます

（とき）平成19年11月17日（土）10:00～17:00

18日（日）10:00～16:00

（ところ）和歌山ビッグホエール

ステージイベント（11月18日（日）13:30～15:30）

入場無料 定員240名（先着順）

（入場ご希望の方は、事前に精神保健福祉センターまでお申し込み下さい。）

○「オープニングコンサート」

出演：「エル・シティオ」の皆さん

○トーク&ダンス

テーマ：「命リセット

～身近な人がうつと闘っている人へ～

出演：watariさん（演出家・振付師）

○「こころがほっとするメッセージ」表彰式

○和歌山県精神保健福祉協会長表彰式

ブースイベント（11月17日（土）・18日（日）両日開催）

【参加予定関連団体】

共同作業所エルシティオ、（福）一麦会、（NPO）和歌山県精神障害者家族会連合会、和歌山県精神障害者団体連合会、和歌山県精神医学ソーシャルワーカー協会、和歌山県精神保健福祉協会、和歌山県精神科病院協会、（NPO）和歌山県断酒連合会、和歌山市精神障害者家族会「つばさの会」、つばさの会を支える会、岩出サンワーク、海南海草地区精神障害者家族会「紙ふうせん」、（NPO）ピア下津作業所、あすなろ共同作業所、紀の川病院、紀南こころの医療センター、和歌浦病院、和歌山ダルク、日本精神科看護技術協会和歌山県支部、AA関西セントラルオフィス



南紀のこころの医療・保健・福祉をなんとかしよらネットワーク ご紹介

和歌山県の南東に位置する新宮東牟婁地域では、平成17年度より家族、当事者、市町村職員（事務、保健師）、指導員、看護師、ボランティア、一般市民、心理士、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなどが集まり、学習会・業務連絡会・事例検討会を開催しています。



精神障害に対する差別や偏見の解消のためには、普及啓発活動が不可欠です。地域住民を対象に、講演会・シンポジウムなどを通して精神障害に対する知識や理解を深めてもらう活動を行っています。また、地域の精神障害者・家族を支援していくための「人づくり」も重要です。ボランティアなどが正しい知識を持ち偏見をなくすことや、専門職の援助技術の習得の為に、専門的技術研修を行っています。また、それぞれが連携し繋がりを持つことを目的に、平成18年度より「南紀こころの医療・保健・福祉をなんとかしよらネットワーク」を設立しました。

平成18年度実績

地域住民への普及啓発活動（こころのフェスティバル）

- ・講演会・シンポジウム 年1回

精神医療保健福祉に関わる専門的技術習得のための研修（延べ484名の参加）

- ・カウンセリング研修 年3回
- ・電話相談研修 年3回
- ・家族の理解の為の研修 年3回

障害の理解を深める当事者・家族の学習活動

- ・家族研修 年3回

各関係機関の精神医療保健福祉に関する情報交換（延べ262名の参加）

- ・業務連絡会 月1回
- ・事例検討会 月1回
- ・事務局会議 月1回



この地域で「当事者のために」「地域住民のために」「高齢者や社会的弱者のために」を地域の状況に応じそれぞれ独自の展開を実践していこうという共通の考えから、地域住民を主体とした生活に根ざした医療・保健・福祉の提供と連携を目指すという熱き想いを抱き集めています。これからもより多くの繋がりや深まりと広がりを目指し、実践の積み重ねをしてゆきたいと思っています。



くなんなんネットのロゴマーク

中央の2つの輪は、ネットワークの輪で、人という字になっています。私たちの会が一番大事にしている、人の輪を表しています。逆さにしたらハートのかたちに見えませんか？その2つの輪（人）を囲んでいる円は、人間関係が円満になるようにとの想いです。横の5本の線は、郵便に押されている、消印を表しています。私たちのくなんなんネットの想いが皆さんの胸に届きますように！2006年4月、この会が動き出した時を忘れずに人の輪を地域（ここ）で、どんどん広げていきたいと願っています。

代表 尾崎 宜洋（クリニッカルピナス院長）
副代表 屋敷 満雄（精神障害者家族会長）
事務局 障害児者相談センター ゆず内

和歌山メンタルヘルスニュース

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

○ 精神保健福祉関連新任者研修会

精神保健福祉業務に従事して概ね5年以下の職員を対象に、7月24日（火）、25日（水）の2日間にわたりビッグ愛にて開催しました。内容は「精神疾患と精神障害者の理解」「相談の受け方の実際」「障害者サービスの提供について」「精神疾患と精神障害者の人権」で、医療機関、行政機関、福祉施設職員等61名の参加がありました。

○ セルフヘルプセミナー

7月29日（日）に田川ふれ愛義塾代表の工藤良さんを講師に、「ほたちょけ 元総長のふれ愛義塾」と題し一般県民向けに講演会を行いました。自身の生い立ちや施設での実践を通しながら、若者の挫折からの立ち直り支援の必要性と、あり方の講演をして頂きました。大勢の方が参加され、反響もすばらしく多くの人が勇気づけられたように思います。

○ こころのレスキュー隊隊員養成基礎研修会

7月30日（月）に子ども・障害者相談センター、7月31日（火）に西牟婁振興局で開催され、教職員や警察等の関係者を含め両日で93名の参加がありました。北端裕司所長による「ストレス障害概論とこころの緊急支援」と臨床心理士会の上野和久先生による「二次受傷とストレスマネジメント」の講義がありました。ワークを取り入れた研修で理解しやすかったという参加者の意見が多く聞かれました。

○ 思春期セミナー

8月5日（日）に海南市海南保健福祉センターにて、教育、行政、医療、施設等で子どもに関わる者を対象に川谷大治先生を講師に招き、「行き詰まった思春期の心～不登校・過食症・リストカットなどを語る～」をテーマに講演をしていただきました。105名の参加がありました。事例を交えてまた、参加者との質疑応答もあり有意義であったとの意見が聞かれました。

○ こころのレスキュー隊隊員実践研修会

9月17日（月）に西牟婁振興局で隊員ならびに仮隊員を対象に実践研修が行われ、13名の隊員が参加しました。午前中は北端所長によるC R T任務の構造についての講義、午後からは学校再会の計画立案と生徒への校長メッセージの作成演習を行いました。

○ 県精神保健福祉協会会員募集

精神保健福祉の向上に賛同される方、年会費は個人1口千円、団体1口1万円です。申込は当センターまたは県立保健所まで。



社会的ひきこもり 青年の集い

日 時：毎月第4火曜日 午後1時～4時
場 所：県精神保健福祉センター フレイルーム
内 容：ミーティングやゲームなどを行います

社会的ひきこもり フリースペース

日 時：毎週火曜日 午後1時～4時
※ 但し第4火曜日は除く
場 所：県精神保健福祉センター フレイルーム
内 容：居場所の提供をしています

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、東牟婁圏域障害児者相談・生活サポートセンター「とも」の水口真一さんです。



はーとふるネットワーク



ー サポートセンターともでの勤務はどれくらいになりますか？

サポートセンターともは平成18年4月に開所し、開所当初から相談員として勤務して2年目になります。

私自身は平成14年に西牟婁郡の上富田町にある南紀福祉センターに2年間勤務し、平成16年に東牟婁郡の旧古座町にある古座あさかぜ園に異動し、2年間勤務し、平成18年にサポートセンターともへ異動となりました。

ー 相談員になられたきっかけは？

福祉系大学に通っていた頃、講義や実習を受けて行くなかで相談員の仕事をしてみたいと思うようになりました。古座あさかぜ園では短期入所事業や児童デイサービス事業などの在宅向けのサービスを担当することになり、地域の方と接する機会が増えました。サポートセンターともで相談員になれたのも在宅の方に多く関わっていたことが自分的には要因だったのではないかと考えています。

ー この仕事をしていた良かったと思う時はどんなときですか？

ほんとたくさんありますが、強いて言うならば、当事者の方、行政機関の方や福祉サービス提供事業所の方、医療機関の方等とたくさん接することができるようになり、色々な情報が収集できたり、関係機関の方々と連携して当事者の方に対する支援の幅が広がったことだと思います。

研修等のお知らせ

(申込み・お問い合わせは
当センターまで)

○ こころの健康講座

日 時：平成19年10月29日(月) 14:00～16:00
場 所：和歌山ビッグ愛 801・802 会議室
講 演：「働く世代のこころの健康づくり」
講 師：関西労災病院 心療内科・精神科部長 梅田 幹人
対 象：一般

○ 社会的ひきこもり家族教室

日 時：平成19年11月30日(金)～平成20年
1月25日(金)の間に5回実施
場 所：精神保健福祉センター プレイルーム

○ 精神保健福祉従事者専門研修会

日 時：平成19年12月3日(月) 10:00～16:30
～12月4日(火) 9:30～16:00
場 所：和歌山ビッグ愛 1201号室
講 師：Healing & Recovery Institute 所長 水澤 都加佐
内 容：「支援者のメンタルヘルス」(3日)
「介入(インターベンション)の技法」(4日)
対 象：精神保健福祉従事者で3年の経験を有する者
定 員：50名

ー 仕事で苦勞する点はどのようなことですか？

たくさんの方々と接することが増えた分、知っておかなければいけないことが増えたことです。知らないことが多いので日々、勉強です(笑)。

ー サポートセンターともPRを一言お願いします。

事業所のPRとしては、新宮東牟婁管内の各市町村から地域生活支援事業(相談支援事業、居住サポート事業、コミュニケーション支援事業)の委託を受け、障害の種別を問わない相談支援事業所として新宮東牟婁管内で様々な関係機関の方々に支えられながら、頑張っています。当事者の方によりそった支援をモットーとしております。どんなことでもお気軽にご相談いただけたらと思います。

ー 休日はどのように過ごされていますか？

休日はもっぱらインターネットで買い物や読書をしてインドアな休日を過ごしております。

ー 今後の抱負を教えてください。

日々、自己研鑽を忘れず行うことです。

ー 水口さんから、次の方のご紹介をお願いします。

私がいつもお世話になっている方で、精神保健福祉士として串本町の潮岬病院の第一線で相談員をされている、甲斐 浩司さんです。

○ 災害時のこころのケア研修(予定)

- ① 日 時：平成20年2月3日(日) 13:00～15:00
場 所：那智勝浦町福祉健康センター
「災害時のこころのケア対策と課題
～能登半島地震後のこころのケア対策の実践」
講 師：石川県精神保健福祉センター所長 清田 吉和
- ② 日 時：平成20年2月15日(金) 10:00～15:30
場 所：和歌山ビッグ愛
「ハリケーン災害の救急支援とPTSDの予防(仮称)」
講 師：和歌山大学教授 宮西 照夫
Dr. ルベン・ゴンザレス(精神科医)
※ 同時通訳
「新潟沖地震のこころのケア対策の取り組みから(仮称)」
講 師：新潟県精神保健福祉センター参事
野口 晃(精神保健福祉士)
講 師：十日町地域振興局健康福祉部
地域保健課長代理 保科 志貴子

○ 社会的ひきこもり講演会 ひきこもりサポート研修 社会復帰関連問題研修

を実施予定

編集後記

今年はことのほか残暑が厳しかったです。世界各地で起こっている異常気象は地球温暖化の影響ではいかとニュースで伝えられています。一人一人のちょっとした心掛けで地球にやさしくなれると思うのですが、、、。そして、人にも、、、。